

内閣府

ゲノム情報と電子化医療情報等の統合によるゲノムコホート研究の推進

【ゲノムコホート研究実施体制の検討：2011年度～】

1. ゲノムコホート研究推進体制の検討

- 新規プロジェクト立上げのための検討事務を行う機関の公募
 - 研究体制の検討 (全体会議、WG)
- 既存の疫学・コホート研究プロジェクトの内容把握
 - 新規プロジェクトとの適合性、データの質の確保

2. 電子化医療・健康情報の集約と統合の検討

3. インフォメーションの育成を含めた情報拠点整備



事務担当機関

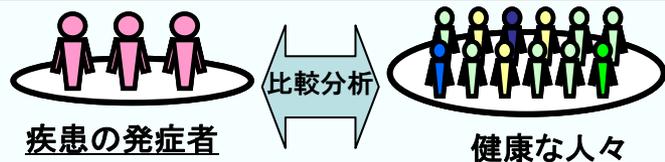
《期待される成果》

- 学術的成果
 - ・ヒトの遺伝変異と表現型 (病気や代謝パターン) の相関データ
- 医療への直接貢献
 - ・予防対象疾患の選定とその予防法の開発
 - ・疾患マーカーの発見と創薬ターゲットの同定
 - ・医薬品の副作用のスクリーニング
- リソースの有効活用
 - ・電子医療情報の統合による過重医療の防止
 - ・小規模コホートの連携による効率向上
 - ・医療費削減効果

【ゲノムコホート研究の実施：2013年度～】



【前向き研究：10年以上の追跡】



- ・疾患関連遺伝子群の同定
- ・疾患関連環境因子の同定
- ・バイオマーカーの同定
- ・その他

- ・疾患の予防
- ・革新的治療薬の開発
- ・新規治療法の開発
- ・医薬品の副作用の回避

《本ゲノムコホート研究の特徴》

- 本研究は、健常者の長期間観察し、疾患の疫学的解析を実施する多目的コホート研究
- 現在実施されている疾患ゲノム研究 (患者の遺伝因子を解明する研究) とは、研究成果を相互に検証する相補的な役割を果たすもので、双方向の連携を持つことが重要
- 本研究は、ゲノム、オミックス解析による新規バイオマーカーも含めた豊富な臨床データを持つ国内外の多目的コホートとの連携が可能